
虹色王子様

三代渡吉

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

虹色王子様

【Zコード】

N2671D

【作者名】

三代渡吉

【あらすじ】

王子様達が集まるすごいパーティ。世の中にはいろんな王子がいるもんだなあ。この小説は、少女漫画・恋愛小説ファン等の手に届かないところで保管してください。

「ここは、とある国の宮殿。そこでは今夜、世界各国の様々な王子が大集合したパーティをやつていました。

しかし……まるで島一つ丸ごと建物になつているかのような広さの中です。全員を紹介するのは大変だと思いますし、皆さんも飽きてしまつことでしょう。

そこで今回は、とある一つの王子のグループの会話を見てみるとこにしましょう。

「こやあ、遠いところ苦労様です」

「こちらこそ、お呼び頂いて、もう感謝感激でござります」

「……わざわざからハエがつるわこなあ。とにかくで、あなたは？」

「ハエトリ王子です」

「へ？」

「この通り、全身にハエが好き好む匂いを充満させているんです。僕の身体に触ると取れなくなりますから、握手は勘弁してください」

「はあ……面白い方ですね。そちらの方は？」

「始めてまして、カプツ」

「痛い！！！ いきなりなんですか！」

「私の名前はアマガミ王子といいま……カプツー！」

「痛いですってば！！ いい加減にしないと国際問題になりますよ」「どうもすみまカプツ！！！」

「イタタタタタタ……はあはあ……ようやく済んだ。それでは、お次

「の方は？」

「いえいえ、あつしは名乗るほどのものでは……」

「そんな恥ずかしがらずに……ってハツ！ 財布がない……」

「もしかして、これですかい？」

「ああ、それは私の財布！！ あなた、なんなんですか！！」

「コソドロ王子です」

「全く酷い目に合いましたな。では次に、そちらの方は……って、大丈夫ですか？」

「はい……大丈夫ですよ。『めんなさい』」

「どうしてそんなにお怪我をなされて？！」

「カサブタ王子ですから……」

「ではお次……あれ？ どちらに行つたのですか？」

「いえ。元々来てませんよ」

「どうじうことですか？」

「そこはヒキオタ王子の席です」

「あー、アイツまた引き籠つて、『さあやるぜー』とやらをやつているのか」

「不健康な奴だ」

「かくいうあなたは、どなたですか？」

「オレか？ オレはカツアゲ王子だ。あーあ、この椅子腰にくるわー。賠償金払つてくれや、さもないと……」

「……お財布を全て渡しますので、『勘弁ください』

「はあはあ、疲れてきた……お次はどなたですか？」

「どうも。始めてまして、ニシガワ王子と申します」

「あ、わかりました。西側しか向けない方なんですね」

「いや、単純に名前が西川^{にしかわ}というだけですが」

「……」

「なんだよその態度。失礼な人だなあ」

「あれ？ また次の席の人いない」

「そこにいるじゃないですか」

「どうしてテーブルを指差して……あれ、なんか鍋がある」

「……うわ、人が入ってる」

「ああ、ネコナベ王子ですよ。気持ちよさそうに寝てますよ。かわいーいー」

「……」

「お次は、どなたですか？」

「オレだよ、オレオレ」

「え？」

「オレだって、オレオレ」

「いや、私とあなたは初対面のはずですが」

「何言つてんだよ。オレだってば、オレオレ」

「……さつきからオレオレなんなんですか！ あなたはオレオレ星人か何かですか？！」

「そりそり。オレ、オレオレ王子」

「はあ、世界つていうのは広いんだなあ。いろんな王子様がいるんですね」

「それで、さつきからあなたは、どちら様ですか？」

「私ですか？ 何言つてるんですか、私はこのパーティを主催したハナチリガミ国の『王』ですよ。忘れてもらっちゃ困るなあ」

『…………』

「え？ 騒あんどうしたんですか？」

「そ二の又、
邪魔だ！
」

「そうよー、私が見たいのはネコナベ王子なんだから、ひとつと失せてよーー！」

「田障りなんだよ！ 踏み殺すぞーー！」

「アーティストの心」

主催者である王様は、ギャラリーの波に飲まれて、内臓破裂・肋骨4本骨折等の、様々な重傷を負ってしまいました。

パーティを終えた王子達は、それぞれの国に帰つていきました。

(後書き)

そして忘れたハンカチ王子。

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連＝横書きという考えが定着しようとっています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n2671d/>

虹色王子様

2010年10月8日13時23分発行